

群馬県立桐生清桜高等学校 学校評価一覽表 (令和7年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策		点検・評価			達成度		達成状況のまとめ及び次年度の課題		学校関係者評価	
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート	総合						
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 教育課程に満足している生徒が85%以上いる。	・生徒の能力・適性をさらに伸ばすため、授業を基本として、さらに授業の改善に努める。 ・外国語(英語)・数学の授業は、少人数制・習熟度別で実施し、達成度の高い学習環境を実現する。 ・教育課程を見直し、生徒の進路実現のための実態に即したものに改善していく。		B	B	B	自己評価・外部アンケートともに評価がBとなっている。生徒の進路希望や習熟状況と教育課程の乖離を感じている職員もいる。清桜高校のこれからの方向性を意識しながら毎年見直しをしていく姿勢が必要である。		実技系の科目は、履修人数に制限があるものが多くすべての生徒の希望を叶えることはできない。また、4年制大学への進学を基本としている本校としては、実技系の科目を希望する生徒が一定数いるという状況は芳しくない。			
	2 生徒が充実感・満足感を得られる教育活動を行っていますか。	② 体育祭・球技大会等の生徒会行事に主体的に取り組み楽しかったと自己評価した生徒が85%以上である。 ③ 桐生清桜高校の学校生活が好きだと感じている生徒が85%以上である。	・友人との協力、先輩・後輩の交流を通して、自分の居場所を獲得し、他人との協調性を体得する。 ・あらゆる学校活動を通して、生徒の学校生活に充実感を持たせる。		A	A	A	生徒会や実行委員会を中心に、以前より積極的な取組になっている。来年度の文化祭の時期を例年と比べ時期をずらしたので、それに向けた動き出しもできている。		昨年よりも生徒が主体的に取り組めている様子が見える。今の取り組みを継続してほしい。			
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 「授業が分かりやすい」と思っている生徒が85%以上いる。	・進路希望調査や学習量調査のデータを集計、分析し、それらを学力向上対策に生かしていく。 ・授業アンケートを実施し、その結果を踏まえて、授業の工夫・改善を行っていく。		A	A	A	理解した内容が定着する指導の工夫が必要である。		生徒の実情に合った授業が展開されていることがうかがえる。進路を見据えて、さらに学力を伸ばす工夫が求められる。			
		⑤ 「協働学習」等の学び合いに意欲的に取り組んだと自己評価した生徒が85%以上である。	・協働学習やICTを活用した授業を積極的に取り入れ、生徒の主体的・対話的な深い学習を促す。 ・就職から四年制大学進学希望まで多様な目標を持つ生徒に対し適切に対応する。		A	B	B	分からないことを気軽に相談できる関係を築けることが、今後にも必要である。また、相手の意見を聞く姿勢と意見を述べる姿勢を培う必要がある。		授業によって協働学習への取り組みに差があると感じる。また、充実した協働学習になる工夫も求められると思うが、生徒にとって必要な能力を養う機会でもあると思うので、積極的に取り組んでほしい。			
	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥ 学習に対する達成感、満足感をもっている生徒が65%以上いる。	・生徒の学力向上を目指すとともに、生徒各人の進路目標に応じた課外授業等を設定する。 ・家庭学習時間の確保を目標に、計画的に学習課題を設定する。 ・定期考査前を中心に、生徒の日常の学習習慣・学習時間を知ること、それぞれの生徒に応じた学習へのアドバイスを行う。		A	B	B	家庭学習の重要性を説きながら、学習の成果が実感できる指導を心掛ける。また、自ら考える意識を高めていく指導の必要性を感じる。		基礎基本の理解と思考し表現することを繰り返し、学力を身に付けていく必要がある。学習することの目的を明確にして、やる気を起こさせる指導の工夫も検討してほしい。			
	5 生徒状況を把握し、組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦ きめ細かな生徒観察を通して生徒に関する情報交換を月に4回以上実施している。	・年次と生徒指導部が密接に連携し情報交換を行い、生徒理解に努め安全・安心な学校生活を送らせる。		B	A	A	昨年度よりも職員全体で共有できる体制ができてきている。さらに情報共有を図ってきたい。		年次、生徒指導小委員会や教育相談係などに所属していると職員はうまく情報共有できているが、それに入っていないと情報格差があると感じる職員もいるのではないかと。朝会などを活用すべきでは。			
⑧ 組織的な服装・頭髪・挨拶指導を月に1度(1週間程度)行う。		・各学期と衣替えの時期に、登校時指導を実施し、「身だしなみ」「チャイムスタート」の徹底を図る。		A	A	A	自らを律することができる生徒を育てると共に、学校として足並みのそろった指導を心掛ける。		「清桜プライド」を合い言葉に良い着こなしができるよう自己規律を喚起している。「清桜プライド」を意識させる指導を継続して行ってほしい。				
6 生徒は健康で規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨ 生徒指導部だよりを10回以上発行し、学校の指導方針を生徒や保護者に伝える。	⑩ 「部活動の活性化」の目標の下、部活動に入室している生徒が60%以上である。	・保護者に学校の指導方針や指導方法に理解をいただき、共通した意識を持つ。		A	A	A	生徒指導部だよりをメール連絡網システムを利用し保護者へも配布する流れが定着している。今後も、さらに共通意識が持てるよう継続していく。		長期休業の前には「生徒指導部だより」を必ず出し、注意喚起が行えている。			
			⑪ 欠席率・遅刻率・早退率の合計がやむを得ない理由を除き在籍生徒の3%以内である。	・自ら部活動に入室し、学校生活を充実させようという意識を高める。		A	B	B	ここ数年は、文化部の活動が活発になってきている。また、その部活動に対する発表の場なども設けてきている。いくつかの見直ししながら継続した取り組みをしていきたい。		運動部についても徐々に結果が出始めている。文化部の活躍の場も増えている。非認知能力などを高める機会でもあるので活動の継続を進めてほしい。		
	7 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑫ いじめの発生防止に努め、いじめの解消に推移していないいじめが0件である。	・いじめに関するアンケートを毎月実施し未然防止・早期発見に努め、発見された場合は状況を正確に把握し、解消に努める。		A	A	A	いじめに関しては、係を中心に迅速な対応が取れている。コミュニケーションの取り方について絶えず見直す姿勢が必要である。		生徒間の人間関係のトラブルがいじめと認識されてしまう状況が見える。その多くはSNSを介して起きることが多い。人との関わりやSNSの利用についての理解の必要性を感じる。問題に対しては、職員が協力して早急な対応ができていると思われる。			
		⑬ 各年次を対象にした進路関係行事を年5回以上実施している。	・生徒の実態や年次段階を踏まえ、内容を精選し、事前・事後指導に努める。		B	A	A	1年を通じて計画的に実施できている。より効果的な行事になるよう絶えず見直ししていきたい。		年次ごとや生徒の希望を募ってガイダンスや説明会を行っている。大学希望の生徒だけに焦点を当てるのではなく、専門学校や就職の生徒も色々な人から話が聞けるようにしているところも良い。			
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	8 計画的な指導を行っていますか。	⑭ キャリア教育・進路情報に関して最新の資料提供に努め、70%以上の生徒が自発的に進路活動を実施できるように促す。	・進路情報・キャリア教育の2点を柱とし、自分自身や人生を考える一助とする。		A	A	A	卒業後の進路をできるだけ早く意識させ、情報を自ら得ようとする姿勢を育てる工夫が必要である。		入試の制度がどんどん変わってきている。進路実現のための情報をいかに提供できるか。生徒はどれだけ情報を持っているかが重要になっているので、今の取り組みを継続しつつ、絶えず情報のアップデートに努めてほしい。			
		⑮ キャリア教育・進路関係行事に主体的に取り組んでいると自己評価している生徒の割合が70%以上である。	・外部機関とも連携し、あらゆる機会を通してヒト・モノ・コトとの出会いの場を創出し、進路意識の高揚を図る。		A	A	A	今年度から本格的にDXが動き出し、外部機関との連携を多く持てる機械も増えてきている。さらに、良い刺激が与えられるように工夫していく。		DXにより、新しい取り組みが始まっている。今後どのような活動になって行くか期待していきたい。			
	9 生徒は自らの進路について真剣に考え、また保護者はそれを理解しその実現に向けて取り組んでいますか。	⑯ 生徒の将来の進路希望について、具体的に理解している保護者の割合が、70%以上である。	・三者面談の内容を充実させる。HPや連絡網等を通じて、進路情報の発信に努め、家庭での進路対話の機会とする。		A	A	A	保護者と進路の話し合いを持てるように三者面談を継続して実施していきたい。		生徒が自分の進路について、自ら考えられるよう指導を続けてほしい。			
		⑰ 進学・就職情報、就学資金等の情報提供が十分になされ、理解している保護者の割合が、70%以上である。	・家庭の状況や年次の実態に即した進路指導及び情報提供に努める。また、保護者向けの進路行事を実施する。		A	A	A	進路だよりを定期的に発行し、適切な情報提供を今後とも続けていく。		4月から各年次十数回便りを発行している。生徒だけでなく、保護者に向けた内容にもなっている点も良い。			
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑱ 学校行事や部活動、生徒会活動で地域の方々と交流する機会を10回以上設ける。	・地域の行事等に積極的に参加する。		A	A	A	文化部を中心に地域とのかかわりを持っている(和太鼓部・ダンス部・美術部など)。引き続き地域とのかかわりを持っていきたい。		部活動や授業(探求・保育・音楽)でも地域との関わりが持っている。この活動を継続してほしい。			
		⑲ 携帯電話連絡網システム(オレンジャー)及びスマート連絡帳の加入率が、全保護者の95%以上である。	・諸連絡を含め、タイムリーに発信する。		A	A	A	加入率は100%であるが、機種変更により送れない家庭も数件存在するので、定期的な確認を行ってきたい。		かなり定着しているシステムではあるが、来年度はスマート連絡帳に移行する予定なので、周知徹底が必要であると思われる。			
	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑳ PTA総会等の保護者が参加する学校行事に出席した保護者が70%以上である。	・保護者のニーズを把握し、適切な情報を発信していく。		A	B	B	PTA総会に関しては、委任状を含めての出席としているので良い内部評価となっている。時代に合わせたPTA総会のあり方を毎年模索する必要がある。		PTA総会に関しては、書面開催などの検討も必要。学校行事などは、Youtubeの限定配信などの対応も考えられる。			
		㉑ 学校のホームページを月4回以上更新している。	・最新の情報を掲載し、本校を理解してもらう。		B	A	A	学校行事の後などこまめに更新している。YoutubeやInstagramなど新しい分野に本格的に取り組む必要がある。		インターネット、SNSの活用に対応が遅れていると感じる。			
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉒ BYODを活用していると自己評価している生徒の割合が80%以上である。	・年度初めの校内無線LANの接続方法について指導し、根気強く対応する。		B	B	B	BYODになって2年目なのである程度対策が取れてきている。この経験を活かして3年目を迎えたい。		新しい取り組みのため苦労がうかがえる。問題に対応できる職員を複数にして対応することが望ましい。			
		㉓ ICTを活用した授業を年3回以上実施している。	・ICTが効果的だと思われる授業場面を考え実施する。		B	A	A	クロームブックが配布されて4年が経過し、バッテリーが持ちが悪く、毎時間の使用には耐えられなくなりつつある。活用を推進したいが、このあたりの問題が足を引っ張る要因になる。		現在は、いろいろな制約がある職員に配布されているノートPCを利用することを検討していく必要があるのではないかと。			
		㉔ ClassiやBYODを利用して、課題や配付物の配信等を行っているとして自己評価している職員の割合が80%以上である。	・ClassiやBYODの利用法についての案内を行う。		A	A	A	今年度からClassiを利用するようになったので、課題の配布などの利便性が上がったと感じる。自宅で、確認する習慣がない生徒も多いことが今後の課題だと感じる		Classiについての活用をさらに広げてほしい。多くの先生が活用することにより、自然と生徒もその必要性や有用性を理解できるのではないかと。			